

日本軽金属ホールディングス株式会社

「2023 年度第 3 四半期 決算説明会」 質疑応答要旨

- ・日 時：2024 年 1 月 31 日（水）17 時 30 分～18 時
- ・説明者：取締役 企画統括室長 松平 弘之
執行役員 人事・総務・経理統括室 経理担当 高橋 晴彦
人事・総務・経理統括室 経理担当

Q1 加工製品、関連事業セグメントの 2Q から 3Q にかけての営業利益改善について、パネルシステム部門以外で改善に貢献した部門は？トラック架装事業が 2Q から 3Q で減益になった要因と 4Q の見通しは？

A1. 景観エンジニアリング部門で公共事業物件の受注の入り良かったことや炭素製品部門で高電炉向けなどの売上が増えたことなどによる。

トラック架装事業については、トラックシャシーの供給回復後に増員し増産体制を敷いているものの生産性向上の途上であること、品種構成で量販車の割合が比較的多いことから、販売量増加に比して利益が増えていない。4Q は販売価格改定後の受注品への置換えが進み、生産性向上も進んできていることから、営業利益は改善してくるとみている。

Q2. 板、押出製品セグメントにおける半導体製造装置向け需要の足元の動向と今後の需要見通しは？

A2. 2Q から 3Q にかけての状況に変化はない。需要低迷は 23 年度末まで継続し、24 年度に入っても厳しい状況が続くという見方をしており、未だ回復の手応えを感じていない。

Q3. 板、押出製品セグメントの営業利益が 2Q から 3Q は増えているのに対し、3Q から 4Q で減る予想としている要因は？

A3. 半導体関連をはじめ市場環境や需要動向に大きな変化は無く、セグメントや各事業の 4Q 営業利益予想が目立って減少する状況にはないと考えている。

Q4. アルミニウム板製品の加工賃の 20%改定を 2 月より実施するが、効果発現は 24 年度以降か？

A4. 24 年度以降に向けた取組みという意味合いが大きい。

Q5. 通期業績予想を 23 年 5 月公表予想のままで据え置いた背景は？

A5. 箔、粉末製品セグメントが大きな要因。3Q は日用品部門が販売のピークとなる季節性の要素に加え、新型コロナウイルスによる社会的制限の緩和による通院増で箔

部門の医薬包材向け加工箔が3Qにかけて需要が旺盛だったことが、営業利益増の主要因。これに対し4Qは季節性の増益要因がなくなることに加え、医薬包材向け加工箔が需要の落ち着きで販売量減少を見込んでいること、リチウムイオン電池外装用箔の販売低迷、アルミニウム地金市況の影響等により、営業利益が減ると見込んでいる。

他のセグメントでは、アルミナ・化成品、地金セグメントは季節性要因による販売減、板、押出製品セグメントは3Qまでの需要低迷の継続、加工製品、関連事業セグメントは景観エンジニアリング部門やパネルシステム部門といった建築関連における年度末での販売増、を見込んでいる。

Q6. 日軽金アクトが2Qから3Qにかけて営業利益が増えた要因は？

A6. 中国での販売が減速している自動車関連が日軽金ALMOに移管されたこともあるが、トラック架装事業向けの需要回復が営業利益押し上げの主要因。

Q7. 3Q営業利益が70億円まで回復しているのは実力値なのか？(上記A5で説明の)箔、粉末製品セグメントや景観エンジニアリング部門などでの一過性の要因を含んでいるのか？

A7. 一過性の要因には、4Qの需要前倒しによるものが一部含まれている。

Q8. 24年度の業績予想をどのようにみているか？

A8. 今期3Q累計業績から見ると、半導体関連の需要低迷や海外での自動車部品事業の苦戦が板、押出製品セグメントの業績低迷の課題と認識している。半導体関連の需要については25年度での市場拡大が現時点での共通認識だが、24年度のいつから立ち上がるかが24年度の業績向上の大きな要素と考えている。一方で中国や米国で展開の自動車部品事業は、お客様である自動車メーカーから求められているグローバル供給体制に中長期で対応していくことを考えており、短期で収益改善ができるかといわれると、正直、難しい。ただ24年度に向けて、まずは収益体質となる基盤を作っていきたい。また、自動車部品事業に限らず、24年度以降の大きな課題として、中長期的に収益力を高めていくための仕掛け・取組みについて引き続き検討を続けており、この仕掛け・取組みが当社グループの次の成長に向けた起点になると考えている。

Q9. 通期営業利益予想を170億円に据え置いているが、セグメント別にみると、第2四半期決算時(10月31日)に公表の通期営業利益予想と比較し、箔、粉末製品セグメントが+15億円に対し、アルミナ・化成品、地金セグメントで△5億円、板、押出製品セグメントで△10億円としているが、各々の要因は？

A9. アルミナ・化成品、地金セグメントと板、押出製品セグメントの営業利益予想を減

らした要因は半導体関連需要や中国での自動車関連の回復遅れが足元で現れていることによる。箔、粉末製品セグメントの営業利益予想を増やした要因は、日用品部門の3Qの季節需要に加え、医薬包材向けの需要立上りや自動車塗料向けペースト製品の販売増を織り込んだことによる。

Q10. セグメント別での営業利益予想の修正は、需要想定の違いによるものなのか？

A10. アルミナ・化成品、地金セグメントと板、押出製品セグメントについては、半導体関連需要の回復時期の予想を年度始では23年度後半としていたのに対し、足元では未だ低迷が継続している。箔、粉末製品セグメントについては、20年度の新型コロナによる巣ごもり需要増に対する21年度・22年度の反動減の影響が23年度も続くとみていたが、23年度は堅調な需要水準であったこと、原材料価格高騰分の販売価格への転嫁ができたこと、自動車塗料向けペースト製品で想定よりも受注をいただけたこと、医薬包材向けの需要が3Qまで好調だったことなど、各分野での需要動向が年度始の想定を上回ったことによる。

Q11. 東洋アルミニウムの事業譲渡の進捗は？

A11. 関係当事者間で検討途中であり、時間がかかっていると認識している。状況が整い次第、説明したいと考えている。ただし、現時点ではアルミ箔事業の統合に向けて最大限の努力をしている状況に変わらない。

Q12. 板、押出製品セグメントの押出製品で進めている自動車部品事業の米国新工場の状況は？

A12. 当初想定していた量産安定化の時期より遅れているのが現状。

Q13. 今後の日軽金ALMOの業績への影響は？

A13. 中国向け自動車部品の販売低迷や米国新工場の量産安定化の遅れが、日軽金ALMOの業績に対し、大きくもう一段悪化させることになるとは考えていない。ただし、直近で発生した自動車メーカーの品質事案が日軽金ALMOの国内の自動車関連事業に及ぶ可能性をリスクの一つとして考えている。

以上